P・M

1932年10月30日発行.

東京支部ニュース 2号

淀橋区上戸塚4丁目743
日本プロレタリア音樂家同盟東京支部

十一月七日を闘へ！

全同盟員諸君。

革命記念日はあと六日だ。我々はその日を目指して第二次革命競争の最後的達成をもつて斗はねばならぬ。我々の周囲には何があるか。日本帝国主義の破滅的危機と戦争の進行とそれに對するプロレタリア農民の汪盛なる逆襲斗爭への轉向がある。日本帝口主義はチベット独立に對するイギリスの援助南支独立のフランスの指導と共同して中口再分割、中口ソヴエートの破壊に新なる進展を見せると共にソヴエート干渉への最前線に進んだ。これは口内大衆の餓死を犠牲にしつゝ十七万の巨大な肉弾のソヴエート口境への配置によつて準備されてゐる。封建的ブルジョア及び地主の政府はそのために総動員、口民更生等の偽瞞によつて愛口主義、絶對主義の謳歌に狂奔しつゝある。日本帝口主義がかくもその敵として民衆に敵意を煽動しつゝあるところのソヴエートとは何か。

ソヴエート同盟は労働者農民の祖口であり、失業者が一人もない口であり、しかも今年は社会主ぎ建設五ヶ年計画の最後的達成の年であり第二次五ヶ年計画への出発の年である。ソヴエート同盟の輝やかしい社会主義建設の勝利はそれとの對比において、破滅へと進出しつゝある世界資本主義の恐怖であり、資本主義のクビキを破壊せんとしつゝあるプロレタリア農民へ十月の道を示すところの道標である。日本に於ける労働者及び農民も又かゝるソヴエートを知らうとする熱意にもえて居り、その熱意は帝口主義日本の半封建的搾取と絶對主義的支配への憎悪と共に高まりつゝある。このことは最近に於けるソヴエート友の会の結成とその目ざましい大衆的発展によつても見る事が出来る。我々はこの記念カンパに於いてソヴエートの実情の紹介、その宣傳、煽動に全力を注ぎソヴエート友の会の強化に援助すると共に我々全体が又友の会に参加しなければならない。

全同盟員諸君！

特に我々は又、次の事実に目をそゝがねばならない。

このカンパと時を同じくして東京市電のストライキが勃発してゐることである。この争ぎが特に帝口主ぎ日本の主都に於ける集中的なプロレタリアートの逆襲斗爭であり、封建的ブルジョアジー及び地主の政府がかゝるものとして野蛮なる重圧をこれに加へつゝある事実を見のがしてはならぬ。我々の十一月カンパが集中的な焦點をこのストライキに於いて示してゐるのだ。我々は交通労働者のゼネストから更に全市的全口的ゼネストまでの発展を持ちうる。このストライキの勝利に協力することに於いて十一月斗争を充分に斗へ！

更に今日、二十九日は封建的絶對主ぎの我前衛の死刑重刑の判決の日である。これは日本帝口主ぎの戦争準備、封建的絶對主ぎのプロレタリアート逆襲斗争への攻撃である。我々は死刑重刑への反對斗争を通じて絶對主ぎに對する大衆的反對の示威を組織化せねばならぬ。

更に我々は次の事実を指摘する。

十一月を期してのプロレタリアートの全面的攻勢を指導する革命的プロレタリアートから大衆を切り離すために封建的絶對主ぎは赤色ギャング、赤色トウゾク等のデマを捏造した。かゝるデマゴギーの真意を暴露する事によつて逆に我々は大衆への革命的影響の確把の機会に轉じなければならない。

全同盟員諸君！

我々は今日これらの斗争のために各種の活動を展開しつゝある。我同盟東京支部はすでにプロット東京支部新築地との共同公演に於いて、作同東京支部との共同主催、「渡政デー講演と音樂の夕」（解散さる）において十月の敵つた。我々は十一月三日（敵を）にソヴエート友の会主催「ソヴエートの夕」を十一月七日にコップ主催「プロレタリア文化の夕」を斗をうとしてゐる。我々はこれらの斗争に於いて上述の基本的観點を充分に達成すると共に全同盟員の協力により大衆を動員しこれを組織化し革命競争の達成をつらぬかねばならぬ。この斗争を通じソヴエートの防衛、国際プロレタリアートの連帯を昂揚せよ。カンパーニヤの期間は後六日だ。我々は指事を加へねばならぬ。

全同盟員は力を結集せよ！

各部報告

組織部

九月以来、組織部は次第にその活動力を失ひサークルまでも失つて来た。その理由は第一に同盟員の組織活動に對する一般的理解の低さと組織部のそれに對する指導の貧弱さ、それにともなつて仕事の缺除、支部財政の極度の弱さによる活動資金の皆無はあつた。しかし、十月七日渡政デーを期して、支部ハモニカ班の再組織を手ひとつて以来、部は立て直しの機運に向ひつゝある。若干の旧同盟員の地区への配層、ヴークルへの配層が部会に於いて決定され、執行委員会にて部員の再構成がなされた。以下の通りだ。

土屋、赤松、武岡、岩浪、山辺、木下、八幸、青木、

教育部

理論研究突撃隊を編成して毎週一回研究会を持つてゐる。なほ創作活動強化のため、作曲技術研究会を持つことを計画してゐる。プログラムは次の通りだ。

A、グループ。（青木）音樂概論、和声学。
B、グループ。（吉原）作曲法。
C、グループ。（高杉）詩、シュプレッヒコール、オペラ。

どしどし希望のグループに申し込め。期日十一月十日迄。

支部教育部は地区における下からの教育活動に對する希望意見をとり上げなければならない。今日支部は江東と城南に地区事務局を持つに至るまでに進展した。当然教育部は地区を基礎に構成されるべきだ。その具体策として執行委員会はまず江東から石川君を部員にあげた。なほ全同盟員をいくつかのグループへ分けての「プロ文化」及び同盟ニュースの研究会を最近に持つ。必ず参加せよ。

財政部

同盟費の滞納は遂に[illegible]始めてゐる。それは直接には部長の怠慢にもよるが全同盟員は自発的に同盟費を納めねばならない。

支部同盟員諸君！

同盟費を納入せよ！

移動部

最近の活動はほとんど小公演にかぎられてゐる。

企劃部

十一月カンパニヤを中心に活動中。

11月7日ピース樂譜出版

進むよ建設に。
渡政の歌

定價未定。

配宣の活動が整備されたぞ！

吾々の間で配宣活動が強力に遂行されなければならぬ事が既に久しい以前から言はれた。併しそれは呼び声だけに終り、現在まで何ら具体的解決を見なかつた。東京支部は我々の出版物の配布網を全く持ち得ずに今日に至つたのである。配布宣傳組織は大衆の中に同盟の影響を拡大し深めて行く所の「傳導體」である。配布網の組織は出版物による同盟の影響の傳導組織であり同盟又はサークル内にその配布網を廣げると共にその他未開拓の部分に組織活動の地ばんを開拓する。現在、付き手の少ない東京支部の場合、我々は組織部の統制下に配宣係りを置く。各地区では直ちに配宣係りを選出せよ。サークルが中から出版物取次者を選出せよ。

各専門技術班の最近の情勢とその活動

合唱團の活動表

期間	カンパーニア	曲目	出演回数	出席率
9.3 ↓ 9.5	青年デーのために	鐘がなれば プロレタリア團結せよ 浦	4回	／
9.20 ↓ 9.25	代表派遣送別共同公演	青年同盟の歌 海こえ山こえ 山男の歌 シュプレツヒコールコーラス	9回 練習3回	65%
10.7	渡政デー	禁止	／	／
10.5 ↓ 10.20	新築地公演	ピオニールの歌2. 青年の歌 バス車掌の歌 愛する大陸（三曲） 新興舞踊の伴奏	20回 練習は他に4回	86%

★東京プロレタリア合唱團

東京支部の中心母として合唱團の活動を充実せしめよ！

合唱團は革命競争のプランにしたがつてほゞ順調にその活動を押し進めて来た。プロットとの競争の取りくみによつて、築地の公演への参加は、代表派遣の送別公演を皮切りにして、十月の新築地公演に参加し更に十一月には左翼劇場公演にも出演の予定だ。その間に獲得したメンバーは三名、全部で十六名になつた。なほ十一月七日までには三、四名の増加を見るであらう。出席率を見ても今度の新築地公演には二、三の者を除いては休みなく、技術的な面に於いても規則的練習が守られ更に演出の問題の解決にまで向かんとしてゐる。我々はこのもり上つた力を固めて東京支部の中心となつて更に一歩前進しよう！

★ハーモニカ班

十月七日渡政デーを期して、新しくハーモニカ班が更生した。この活気にみちたハーモニカ隊はすでに築地の公演に出演して大衆の絶對（新）的支持をうけた。メンバーは殆んど職場の同志だ。最近ハーモニカ隊独自のニュース発行を計画中。ハーモニカ隊を支持せよ！

★創作班

兵士を送る　村田達夫詩、吉原すみ子作曲、
渡政の歌　峯弘子詩、原太郎作曲、
バス車掌の歌　山本正夫詩、吉原すみ子作曲、
愛する大陸　金龍斉詩、原太郎作曲。

十月の重な作品は以上の通りだ。どしどしこれ等の歌に對する批判を送れ。

ロシア革命15週年記念を中心とした我等の催し。

11月3日晝・夜　ソヴエートの夕

芝居・音楽・舞踊・

会場　築地小劇場

主催・ソヴエート友の会

11月16日より20日まで　ソヴエート事情展

於・上野自治会館。

プロレタリア文化の夕べ　11月7日

芝居・合唱・ハーモニカ合奏

映画

詩の朗読

主催　コップ・

会場　築地小劇場

入場料30セン

労券15セン

新同盟員。

北見伸、吉川勇、尹樂淳、安丸承、谷村正三、井上撥ノ、中田律子、斉藤平八郎、古田徳郎、木下清、

進むよ建設に。

俺らは火にきたへ、十月に打ちきたへ
ドレイのくさりをくだく世界の
建設者――
さへぎるものをたほし、つらぬこいぶつま
創造の力勝利に輝やいて、
ビロードの石油よ吹き上げろ　しぶき！
ウラルの礦脈よ、湧け！　渡ろう山に。
建設のボルガよ陽の様にもえろ！！
おそれるな、敵を、俺達は勝利者だ！
老ひぼれのロシアよ　あともなくほろび
若き俺らの祖国は進むよ建設に　へうぞ！

同盟本部費5SEN　支部費30SENを納入せよ！。

本部ニュース第二号三頁へ　同盟財政の危機を救へ！。を必ず読め！。

部長及び部員の変更

武者君が家庭の事情のために横浜へ歸へつた後、赤松君が移動部長にあげられた。企劃部員として岩渡君があげられた。

書記局より。

極度の財政困難の中からニュース2号を諸君の中に送る。ニュース発行に際して、西川君が五十銭を投じて援助された事は大きな力となつてゐる。同志諸君！

ニュース批判を書記局に送れ！

十月三十日、このニュース製作の最中、書記局の同志赤松君と積極的に手傳つてゐた木下君とが戸塚署へ持つて行かれた。同志達に救援金と贈り差入れ物品を送れ。

なほ、オーケストラ班の伊藤君が理由なく戸塚署にやられてゐる。伊藤君の家族を見舞へ。